



1835

Robert Alexander Schumann

Frédéric François Chopin

Jakob Ludwig Felix Mendelssohn Bartholdy



2023 28.4. Freitag

MUSICASA



主催 しろくまコーポレーション

ごあいさつ

本日は演奏会「1835」にお越しくださりありがとうございます。

1835年、メンデルスゾーンの紹介でショパンがライプツィヒのシューマンの元を訪れ、3名の情熱に溢れる若手作曲家が一つ屋根の下に集まりました。後にロマン派を代表する作曲家として歴史に名を残すことになる3人の人生の交差点、1835年。今夜はその3人の作品を、ピアノソロ、チェロとピアノ、ピアノ五重奏の編成でお届けします。

2020年の緊急事態宣言から3年が経ち、少しずつ以前の日常に戻りつつありますが、対面での交流が制限されたこの3年間は、この時代を生きている私たちの人生に共通の影を落とすことでしょう。しかし、その中で生まれた新しい出会いもありました。コロナ禍で多くの演奏会が中止となる中、自分の音楽を届けるために、オンラインの場で活動を始めた音楽家の方々がいました。そして、そこからたくさんの出会いや繋がりが生まれました。様々なご縁があり、本日、敬愛するチェリストの寺井創先生をお招きして、オンラインで出会ったプレイヤーの方々と演奏会を開催する運びとなりました。みなさまの3年間に思いを馳せながら、お楽しみ頂ければ幸いです。

たくさんの出会いのきっかけとなった音楽療法士でフルーティストの大野綾音さんへ感謝を込めて。
しろくま

作曲家紹介

ロベルト・アレクサンダー・シューマン (1810-1856年)

Robert Alexander Schumann

ドイツ・ロマン派を代表する作曲家。ベートーヴェンやシューベルトの音楽のロマン的後継者として位置づけられ、交響曲から合唱曲まで幅広い分野で作品を残した。とくにピアノ曲と歌曲において評価が高い。ショパンに「クラリスレリアーナ」を献呈している。

フレデリック・フランソワ・ショパン (1810-1849年)

Frédéric François Chopin

ポーランド生まれの作曲家・ピアニストで、ピアノ音楽の巨匠として知られている。ロマン派の代表的な作曲家であり、約230曲の作品を残した。幼少期から音楽の才能を示し、パリで大きな成功を収めた。ショパンの作品は非常に繊細でロマンチックであり、高度な技術が要求されることで知られている。代表作には「革命」エチュード、バラード、ノクターン、ワルツ、ピアノ協奏曲などがあり、ピアノの詩人とも呼ばれる。シューマンに「バラード第2番」を献呈している。

ヤーコプ・ルートヴィヒ・フェーリクス・メンデルスゾーン・バルトルディ (1809-1847年)

Jakob Ludwig Felix Mendelssohn Bartholdy

ドイツの作曲家・指揮者・ピアニストであり、ロマン派の代表的な作曲家。哲学者モーゼスを祖父、銀行家のアブラハムを父親に、作曲家ファニーを姉として生まれ、神童として幼少期から優れた音楽の才能を示した。「ヴァイオリン協奏曲」『夏の夜の夢』『フィンガルの洞窟』『無言歌集』など今日でも広く知られる数々の作品を生み出し、バッハの音楽の復興、ライプツィヒ音楽院の設立によって19世紀の音楽界へ大きな影響を与えた。

プログラム

ナビゲーター:大野綾音

Piano ピアノソロ

R.シューマン / アラベスク ハ長調 Op.18 1839年作曲

R.Schumann: Arabeske C-Dur Op.18

F.ショパン / ノクターン第8番 変ニ長調 Op.27-2 1835年作曲

F.Chopin: Nocturn No.8 Des-Dur Op.27-2

F.ショパン / バラード第4番 ヘ短調 Op.52 1843年作曲

F.Chopin: Ballade no.4 f-moll Op.52

Cello and Piano チェロとピアノ

F.メンデルスゾーン / 無言歌集より

F.Mendelssohn: Lieder ohne Worte

「甘い思い出」ホ長調 Op.19-1 1831年作曲

"Sweet Remembrance" E-Dur Op.19-1

「春の歌」イ長調 Op.62-6 1842年作曲

"Frühlingslied" A-Dur Op.62-6

「5月のそよ風」ト長調 Op.62-1 1844年作曲

"May Breezes" G-Dur Op.62-1

F.メンデルスゾーン / 無言歌 二長調 Op.109 1845年作曲

F.Mendelssohn: Lied ohne Worte D-Dur Op.109

～ 休憩 (Intermission) ～

Piano Quintette ピアノクインテット

R.シューマン / ピアノ五重奏曲 変ホ長調 Op.44 1842年作曲

R.Schumann: Piano Quintet in E-Flat Major, Op.44

I. Allegro brillante

II. In modo d'una marcia. Un poco largamente

III. Scherzo: Molto vivace-Trio I-Trio II: L'istesso tempo

IV. Allegro, ma non troppo

プログラムノート

R.シューマン／アラベスク ハ長調 Op.18 (1839年作曲)

R.Schumann: Arabeske C-Dur Op.18

アラベスクとはアラビア独特の装飾(工芸や建築)に使われる唐草模様のことである。アラベスクと題するピアノ曲は、ブルグミュラーやドビュッシーをはじめ多くの作曲家に書かれているが、シューマンが最初である。

この曲は1839年に作曲されたが翌1840年に長年愛したクララとようやく婚約でき、この曲にはまさにシューマンの夢と愛が紡ぎ出された淡い表情が伺える。(宮野)

F.ショパン／ノクターン第8番 変ニ長調 Op.27-2 (1835年作曲)

F.Chopin: Nocturn No.8 Des-Dur Op.27-2

1835年に第7番と共に作曲され、オーストリア駐仏公使夫人であったダッポニ伯爵夫人に献呈。身分の高い彼女の捧げたことから「貴婦人の夜想曲」と呼ばれることもある。左手は常に大きな跳躍を含む分散和音伴奏型が用いられる。

テクニク以上にショパンの歌心と音色を表現することが大切とされ、ノクターン第2番や第5番と並んで演奏機会が多い曲とされている。(宮野)

F.ショパン／バラード第4番 ヘ短調 Op.52 (1843年作曲)

F.Chopin: Ballade no.4 f-moll Op.52

ショパンが作曲したバラードは全4曲ありその最終曲。難曲中の難曲でありピアノソナタ第3番や舟歌、幻想ポロネーズと並びショパンのあらゆる作曲技法が尽くされている円熟期の最高傑作の一つとされている。

作曲当時ショパンは32歳で夏にはフランスのノアンで恋人であったジョルジュ・サンドの家で過ごし公私共に幸福に満ちた環境に囲まれていた。

曲は遙か遠くで聴こえてくる鐘の音で幕を開け、ゆったりと美しく、しかしどこか迷いや不安が伺える主題で始まる。(宮野)

F.メンデルスゾーン／無言歌集より

F.Mendelssohn: Lieder ohne Worte

「夕暮れにピアノの前に座り、ファンタジーのおもむくままに楽の音を奏でているうちに、知らず知らずに、ピアノに合わせてメロディをそっと口ずさんでいた経験が誰しもあるだろう。もしそのメロディと伴奏をピアノの鍵盤上で結びつけることができるなら、そしてメンデルスゾーンのような才能に恵まれているなら、そこから世にも美しい無言歌の数々が生まれる」(シューマンによる《無言歌集第2集》の初版評。1835年『音楽新報』掲載)

メンデルスゾーンは「無言歌集」で歌曲のような歌唱性や感情表現をピアノ曲に取り入れ、旋律や和声によって物語を描くことを試みました。「無言歌集」は全8巻で6曲ずつ収録されており、48曲にはそれぞれ表題がつけられています。本日は春らしい表題の3曲をチェロとピアノ用に編曲したものをお届けします。(しろくま)

「甘い思い出」ホ長調 Op.19-1 (1831年作曲) *"Sweet Remembrance" E-Dur Op.19-1*

分散和音の流れるような伴奏の上に、優美なメロディが奏でられます。美しく柔らかな旋律が魅力的な曲です。

「春の歌」イ長調 Op.62-6 (1842年作曲) *"Frühlingslied" A-Dur Op.62-6*

明るく華やかな雰囲気、メンデルスゾーンのパiano曲の中でも特に有名な曲のひとつです。春の訪れを感じさせる情感あふれる旋律をお楽しみください。

「5月のそよ風」ト長調 Op.62-1 (1844年作曲) *"May Breezes" G-Dur Op.62-1*

優美で翳りのある旋律が印象的な曲です。ゆったりとしたテンポとやさしいメロディが心地よい風が吹く春の日をイメージさせます。

F.メンデルスゾーン／無言歌 二長調 Op.109 (1845年作曲)

F.Mendelssohn: Lied ohne Worte D-Dur Op.109

晩年にチェロとピアノのために作曲された無言歌で、ピアノ曲として書かれた48曲の「無言歌集」以外に「無言歌」のタイトルを持つ唯一の作品です。憂いを帯びた旋律が特徴で、物語が浮かぶような感情豊かな曲です。(しろくま)

R.シューマン／ピアノ五重奏曲 変ホ長調 Op.44 (1842年作曲)

R.Schumann: Piano Quintet in E-Flat Major, Op.44

I. *Allegro brillante* (変ホ長調)

II. *In modo d'una marcia. Un poco largamente* (ハ短調)

III. *Scherzo: Molto vivace-Trio I-Trio II: L'istesso tempo* (変ホ長調)

IV. *Allegro, ma non troppo* (変ホ長調)

シューマンの室内楽曲の最高傑作であるピアノ五重奏曲。クララとの結婚から2年経った1842年はまさにシューマンにとっての「室内楽の年」で9月から10月のわずか数週間のうちに作曲された。もう一つの名作のピアノ4重奏もこの翌月に作曲される。当時は弦楽四重奏にピアノが加わるピアノ5重奏は画期的で、まさにシューマンはこの編成のパイオニアであった。妻のクララ・シューマンは「力と初々しさのみなごった作品」「まわめて華やかで効果的」と評しクララとの結婚で得られた幸福な生活を反映しているともされる。(宮野)

出演者プロフィール



宮野恭輔 Kyosuke Miyano (ピアノ)

秋田県出身。桐朋学園大学を卒業し、研究科を経てイタリア国立ボルツァーノ音楽院へ首席で入学し研鑽を積む。第6回桐朋ピアノコンペティション第1位、第48回カワイ音楽コンクールピアノ部門Sコース金賞、第11回Francesco Moscato国際音楽コンクール(イタリア)第2位など、国内外のコンクールで受賞。桐朋学園大学Student's Concert、オデッサMusic Festival(ウクライナ)、Euro Summer Festival(ドイツ)などに出演。また、これまでに日本、イタリア、ドイツ、ポーランドにてリサイタルを行う。オーケストラはボルツァーノ音楽院管弦楽団、EUユース管弦楽団と共演。

また、オリヴィエ・ギャルドン、ジャン＝クロード・ペヌティエ、ディーナ・ヨッフエ、タチアナ・ゼリクマン、ミハエル・ヴォスクレセンスキー、クラウス・ヘルヴィツヒの各氏をはじめ、著名な演奏家のレッスンを受講する。

2022年、日本演奏連盟主催にて東京文化会館にてリサイタルを行い好評を博す。日本クラシック音楽コンクール全国大会を始め各種コンクールにて審査を、教育活動やアウトリーチも積極的に行う。これまでに、山崎圭子、須田眞美子、ジョルジア・アレックスサンドラ・ブルスティアの各氏に師事。



寺井創 Hajime Terai (チェロ)

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学音楽学部へ入学。在学中、ウィーン・プラハ・ブダペスト合同の国際室内楽講習会に大学から派遣される。藝大室内楽定期演奏会に毎年出場。F・バルトロメイ氏選抜による室内楽公開講座に参加。サイトウキネン「若い人のための室内楽講座」、小澤征爾音楽塾オペラに参加。日本クラシック音楽コンクール全国大会3位。札幌チェロコンクール1位優秀賞。大学卒業試験においてアカンサス賞、同声会賞を受賞。

現在、東京藝術大学音楽学部非常勤講師、藝大フィルハーモニア管弦楽団団員。光州ナショナルフィルハーモニックオーケストラ、ゲストプリンシパル。カルテット「グラーツィア」メンバー。オーケストラ、室内楽、レコーディング、ミュージカル、現代音楽他、幅広く活動する傍ら、後進の指導にもあたっている。生徒の東京藝術大学、東京藝術大学附属高校への合格実績多数。

これまでに、毛利伯郎、北本秀樹、河野文昭の各師に師事。



大槻桃斗 Momoto Otsuki (ヴァイオリン)

華やかな音色と多才な音楽性で、クラシックのみならずポップスやジブシー音楽等、様々なジャンルで活躍するヴァイオリニスト。

現在は各地のプロオーケストラに客演する他、BS-TBS「Live on!!」、同「うた恋!音楽会」へのレギュラー出演、CM及び映画における音楽制作等メディアへの露出も多い。著名アーティストからの信頼も厚く、由紀さおり、中川晃教、八代亜紀、玉置浩二らと共演する他、aiko「Love Like Pop22」全国ツアーに出演、ルーマニア大使館にて高円宮妃久子殿下の御前で演奏する等、着実に活躍の場を広げている。

モトシュジブシーバンド主宰。第13回ルーマニア国際コンクール弦楽器部門第3位および聴衆賞。Naoya Iwaki Pops Orchestraコンサートマスター。柔道講道館二段。



千葉裕之 Hiroyuki Chiba (ヴァイオリン)

熊本県出身。済々黌高校、早稲田大学卒業後、社会人経験を経てジェラルド・プーレ氏の弟子となる。昭和音楽大学大学院にて同氏の下で研鑽を積み、同修士課程修了。これまでにヴァイオリンを東眞知子、故・松村英夫、征矢健之介、山本友重、清水高師、ジェラルド・プーレの各氏に、室内楽を菅野博文氏に師事。また、戸澤哲夫、館市正克、石田泰尚の各氏より薫陶を受けた。

第30回熊日学生音楽コンクールヴァイオリン部門最優秀賞及び全部門中の熊本県賞受賞。第81回読売新人演奏会出演。在学中よりLe Velvets専属ストリングス、テアトロ・ジューリオ・シヨウワ管弦楽団等でコンサートマスターを務めた後、The Orchestra Japan入団。第1ヴァイオリン奏者としてディズニー・オン・クラシック全国ツアー約70公演に参加。2012年、英国で開催されたワールド・シェイクスピア・フェスティバルにて、舞台「シンペリン」(主演:阿部寛、大竹しのぶ/演出:蜷川幸雄)劇中でのヴァイオリンを演奏。ロンドン/バービカンシアターを始め、国内外42公演に参加。現在は首都圏プロオーケストラへの客演、ソロ活動の他、「17ライブ」でのライブ配信、YouTubeの活動にも力を入れている。

2023年8月東京、熊本でのリサイタルを予定。
千葉裕之ヴァイオリンリサイタル 8月5日 @ルーテル市ヶ谷 18:00開演(17:30開場)
ピアノ:佐藤勝重 曲目:ベートーヴェン ヴァイオリンソナタ第9番「クロイツェル」
パッサ 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番よりシャコンヌ
チケット販売:0120-240-540 (カンフェティチケットセンター平日10:00-18:00)



飯野和英 Kazuhide Iino (ヴィオラ)

5歳よりヴァイオリンを始め、印田礼二、吉川朝子両氏に師事。東京音楽大学入学時にヴィオラに転向し、卒業後は東京芸術大学大学院音楽研究科ヴィオラ専攻修士課程へ入学。芸大音楽堂において、第38回、及び第40回室内楽定期に出演。2014年3月に卒業。その後渡仏。Nationale De Musique Conservatoire Edgar VARESEに在籍。パリにてコンテンポラリーダンスとヴィオラの為の「La Sante」を自作自演により発表。好評を博す。パリ留学中にバロックヴィオラを学び始め、演奏活動の幅を広げる。サントリーホール室内楽アカデミー第二期フェロー修了。パブロカザルス音楽祭(フランス)、キャッツキル国際セミナー(アメリカ)に奨学金を得て参加。第8回ブルクハルト国際コンクール弦楽器部門審査員賞。第3回蓼科音楽コンクール弦楽器部門第3位。第12回日本演奏家コンクール弦楽器部門第2位(1位無し)。第19回コンセルマロニエ入選。市川新人コンクール優秀賞。これまでにヴィオラを兎束俊之、大野かおる、川崎和憲、百武由紀、Piere Henri Xuereb各氏に師事。2017年1月~2019年8月まで仙台フィルハーモニー管弦楽団ヴィオラ副首席奏者を経て2019年9月より東京にて自身の音楽活動と同時に作曲活動も開始。これまでに東京、大阪、仙台、福岡でのツアーを成功させる。

2021年よりEnsemble team我流奏団を立ち上げ、2枚のアルバム「我流」「Look inside my Brain」を発売中。映画「ラーゲリより愛を込めて」のストリングスを担当した事をきっかけに更なる活動の幅を広げている。



大野綾音 Ayane Ohno (ナビゲーター)

日本音楽療学会認定音楽療法士でありフルート奏者。音楽療法は、障害や発達特性のある児童が通う放課後等デイサービスや、緩和ケア・回復リハ病棟を中心に年間400件以上のセッションを行っている。これまでコンサートのほか、病院、福祉施設、神社や学校など、様々な場所で演奏を行う。1stアルバム「ねがいごと」2ndアルバム「chaleur」をリリース。2022年には全国5都市を巡る全国ツアーtripを行う。音楽療法を軸に置きながら、演奏活動やライブ配信など“音楽で人を幸せに”をモットーに様々な角度から音楽活動を行っている。